育G新聞

Vol.11

イクジイが日本を元気にする。

毎月1回連載

育G新聞編集部　編集協力：
NPO法人 ファザーリング・ジャパン
NPO法人　孫育て・ニッポン

育G インフォメーション

ワークショップコレクション9
～こどものためのワークショップ博覧会～

【日　程】3月9日（土）　11:00～17:00
10日（日）　10:00～17:00
※両日とも入場は 16:00 まで

【参加費】無料

【場　所】慶應義塾大学　日吉キャンパス
第4校舎独立館、第4校舎

【出展数】約90のワークショップが出展します。

【問合せ】ワークショップコレクション運営事務局
（NPO法人CANVAS内）03-6456-1929

【web】www.wsc.or.jp/WSC.html

子育て・孫育て連続講座
「地域でイキる」を考える

1月26日（土）「イクメン・イクジイのチカラ」

2月2日（土）「地域共生からどうする？
これからの子育て、教育、介護」

【場　所】杉並区・細田工務店杉並リボン館
（1月19日、1月26日）
産業商工会館（2月2日）

【詳　細】www2.city.suginami.tokyo.jp/guide/detail/9381/osirase_H24.pdf

育G発見！

No.11

東京オリンピック
メキシコシティオリンピック
レスリング金メダリスト

小幡 洋次郎さん

館林高校レスリング部、部員のかけ声が響く母校の武道館でコーチとして指導にあたっているのが、2大会連続の金メダリストである小幡（旧姓上武）洋次郎さん。

◆レスリングをはじめたきっかけは？

館林高校に入学してからです。勉強があまり好きじゃなかったので、将来身をたてるためにスポーツを頑張ろう、と考えました。ところが、あっという間にレスリングに夢中になってしまった。早稲田大学からオクラホマ州立大学に留学し、何から何までひとりでやりました。当時の練習は厳しかったですが、楽しくて楽しくて仕方なかったですね。練習が大好きでした。それで競技者として自然とオリンピックが目標になっていきました。予選を勝ち抜いてオリンピックに出場できたときは、とにかく幸せで夢のようでした。選手村はインターナショナルな雰囲気で、各国のお料理が一流の料理人の手ですらっと並べられていたり。僕たちは減量があったから、食べたくても食べられませんでしたが。笑。東京オリンピックのころは、日本全体が盛り上がっていましたね。そして、みんなそれぞれの持ち場で自信を持って頑張っていた感じがします。

東京オリンピックのあと、オクラホマに戻り、プレッシャーのかからない自由な気持ちで競技を続けることができたおかげでしょうか。次のオリンピックに出ることもできました。当時のオクラホマの仲間たちとは今もずっとつきあいが続いていて、今年の夏には孫たちを連れて行きました。「育G」ですよ。ジイジが経験してきたことを孫に見せるのもとても大切なことだと思いましたね。

◆再び、母校のコーチをなさっています。お孫さんのような高校生が相手ですが？

実は、仕事が忙しくて20年ぐらいレスリングから離れざるをえませんでした。またレスリングの世界に戻ってくることができて、それはもう生きがいになっています。全国に教え子のまた教え子の「孫」たちがたくさんいるようなもので、国体や競技会に出ると集まったりするんです。ひとつの競技を続けていたからこそ、こうして全国に「孫」ができたし、オリンピックに出たことで、人生の幅も広がったんじゃないかなと思っています。

熱心に指導される小幡さん。

取材の合間にも、体調が気になる部員に声をかけアドバイスする「小幡コーチ」は部員全員の「優しくて厳しいジイジ」なのかもしれない。

育G（イクジイ）とは・・・・育Gの「G」は Grand Father の G！　孫育て、あるいは地域の子どもたちの育成に力を注ぐことで、豊かな社会経験を

育Gの極意 special

スポーツを通して子どもたちに喜び、夢を！

2020 年夏のオリンピック・パラリンピック開催候補地立候補している東京。開催都市が決定するのは 2013 年 9 月 7 日。東京での開催は、子どもたちにどのような意味があるのか。特定非営利活動法人　東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 副理事長／専務理事の水野正人さんにお話しを伺った。

子どもたちは私たちの宝、未来です。より良い日本を作るために、今の子どもたちにはスポーツ精神の“3 つのF”「ファイティング（fighting）」「ファインプレー（fine play）」「フレンドシップ（friendship）」を持ってもらいたい。そして、スポーツを経験することによって、子どもたちが喜び、元気、勇気、夢をもち、未来を担う日本人として健やかに成長してほしいと願っています。

1964 年東京オリンピックが開催されたとき、私は大学３年生でした。快晴のもと行われた開催式、色とりどりの選手団、青空にブルーインパルスが描く五つの輪を見て、日本人として誇らしく思い、将来に大いなる夢を持ちました。

東京オリンピック開会式に自衛隊
「ブルーインパルス」が空に描いた五つの輪

1964 年 10 月 10 日　東京・国立競技場

そして、その経験から国際的な人間になろうと米国留学をしました。

今、世界における日本の評価が低下しています。経済や産業が力をなくし、閉塞的な状況が続き、若い人たちが夢や希望を持ちにくくなっています。私たちは、オリンピック・パラリンピックの開催を機に、日本人が日本人としての誇りを取り戻し、発展的な将来を創造することができるのではないかと考えています。また、子どもたちには、スポーツを通じて頼もしい人間に育ってもらいたい。たくさんの子どもたちが頼もしい人間に成長すれば、日本は世界の中でも頼もしい国になれると信じています。

将来素晴らしい日本を構築するためには、子ども・孫世代とのコミュニケーション

が大切です。苦言もあるかもしれないけれど、勇気をもって、子どもが理解できるような良い表現で諭すべきです。人間は誰も完璧ではありません。失敗や思わぬことが起こります。大きな心を持って、子どもたちに声をかけていきましょう。

育Gスタイル

育Gスタイリスト G・ハヤシがアドバイス

「孫といっしょに冬のスポーツ観戦」

サッカー、ラグビー、マラソンから草野球の応援まで、冬こそ孫とスポーツ観戦を楽しもう！

ブランケットは冷たい座席にしくもよし、孫といっしょにくるまるもよし。
あたたかい飲み物をふぅふぅしながら、元気に声援を送りましょう！